



コーディングマニュアルおよび 目録情報の基準改定案説明会

—ようこそ NCR2018！

2024年2月26日(月)14:00～16:00

これからの学術情報システム構築検討委員会
システムワークフロー検討作業部会
メタデータ流通の高度化班

村上 遥(東京外国語大学附属図書館)

NCR2018ってなに？

はじめに

NCR2018は無料で見られます！

※冊子体のほうが見やすいけれど（私見ですが）

データ作成事例もあります。



日本目録規則（NCR）2018年版関連情報

目録委員会 / Last update: 2023.4.1

当ページへのリンクはこちら: <http://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-info>

日本図書館協会目録委員会

[規則（最新版）](#) / [本規則について](#) / [過去の条文](#) / [その他の関連情報（記事、方針文書等、プレゼンテーション等、会議等、委員会）](#) / [ご意見・ご質問](#) / [更新履歴](#)

[PDF版の更新について（2023.3.1）](#) / [データ作成事例追加\(2023.4.1\)](#) / [第4刷正誤表（2023.3.1）](#)

規則（最新版）

『日本目録規則2018年版』を2018年12月25日に刊行し、2019年1月7日にPDF版を公開しました。

2023年3月1日に、PDF版の更新を行いました。

- [冊子体販売ページ](#)（日本図書館協会，2018.12.25，761ページ，本体価格5,000円） [第1刷正誤表](#) [第2刷正誤表](#) [第3刷正誤表](#) [第4刷正誤表](#)
- [PDF版](#)（2023.3.1更新）

規則外の補足情報

[2023.3更新について](#)（2023.3.1）（pdf 206KB）

2023.3.1付の更新事項について説明しています。

[更新事項累積一覧](#)（2023.3.1現在）（pdf 200KB）

2022年度以降のPDF版更新事項を通覧する表です。現在は2023.3の更新事項のみが入っています。

「[『日本目録規則2018年版』の更新について](#)」（2022.9.20）（pdf 105KB）

規則の更新に関する方針を公表しました。2022年度より、目録委員会で決定した更新事項をPDF版に反映していくこととします。

[第4刷正誤表（2023.3.1現在）](#)（pdf 86KB）

目録委員会

目録委員会

[日本目録規則2018年版](#)

[日本目録規則（NCR）2018年版関連情報](#)

[目録委員会議事録](#)

[過去の情報（目録委員会）](#)

福島県沖地震など全国で頻発する災害の影響を受けている皆様にご心よりお見舞い申し上げます。日本図書館協会は微力ですが被災した図書館をできる限り支援をいたします。

[新型コロナウイルス関連情報のページ](#)

[図書館災害対策委員会のページ](#)

[日図協図書館のご案内のページ](#)

[全国図書館大会](#)

[JLA主催行事](#)

[図書館イベントカレンダー](#)

<http://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-info>

昨年度の部会における検討

NCR2018適用細則案

- NDLの適用細則案をもとに検討

洋書へのNCR2018適用の是非

- RDAの適用への負担等を考慮

パブリックコメント募集 2022/2/25～3/25

- https://contents.nii.ac.jp/korekara/about/sw_wg/pc202202

今年度の部会における検討

コーディングマニュアルおよび目録情報の基準

2022年度公開適用細則案をもとに検討

■パブリックコメント

前半 書誌データ部分とそれに関連する目録情報の基準

2023/12/22～2024/1/31

https://contents.nii.ac.jp/korekara/about/sw_wg/pc202312

後半 残りの部分とそれに関連する目録情報の基準

2024/2/19～2024/3/18

<https://contents.nii.ac.jp/korekara/news/20240219-0>

■説明会

2024/2/26 14:00-16:00 オンライン開催

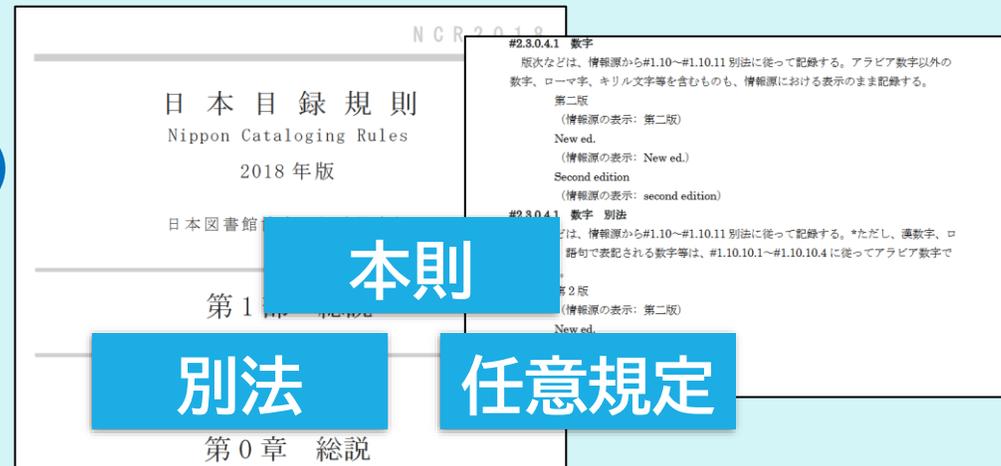
マニュアルの関係性???

適用細則

#2.3.0.4.1	数字	版次などは、情報源から#1.10~#1.10.11 別法に従って記録する。アラビア数字以外の数字、ローマ字、キリル文字等を含むものも、情報源における表示のまま記録する。 第二版 (情報源の表示: 第二版) New ed. (情報源の表示: New ed.) Second edition (情報源の表示: second edition)	2.2ZF	非適用	別法を適用
#2.3.0.4.1	数字 別法	版次などは、情報源から#1.10~#1.10.11 別法に従って記録する。*ただし、漢数字、ローマ数字、語句で表記される数字等は、#1.10.10.1~#1.10.10.4 に従ってアラビア数字で記録する*。 第2版 (情報源の表示: 第二版) New ed. (情報源の表示: New ed.) 2nd edition (情報源の表示: second edition)	2.2ZF	適用	

CATでは何を
選択する?

[規則]NCR2018



CATではどう
記録していく?

コーディング マニュアル

目次

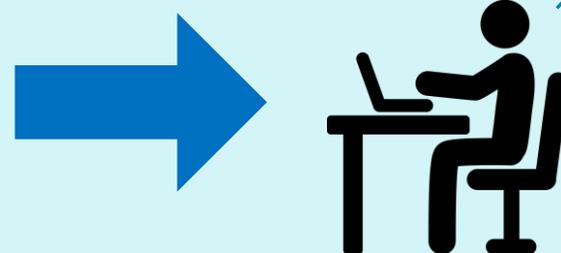
[このマニュアルについて](#)

[改訂履歴](#)

第0章 総則

- 0.1 データセット
 - 0.1.1 図書と逐次刊行物
 - 0.1.2 和資料と洋資料

書誌データ



```
<804850689> CXTD:19940318 CRTA:FA000678 RNDT:19960322 RNF:FA000511
C&D: 9&D: YEAR:1990 ONTY:ja TILL:;jpn TEXT:;jpn ORGL:
ISSN: NBN:J990040398 LC&N: NEL&N:
REPR&: GP&N: O&N: JLA:90014940
VOL: ISBN:465460096X PRICE:4944 円 XISBN:
TK:近代日本文学への探照 : その方法と思想 / 植父江昭二著||ケンダイ ニホン ブンガク
エノ タンサク : ソノ ホウホク ト シンゾク ト
PUB:東京 : 楽楽社 , 1990.5
P&S:477p : 22cm
NOTE:楽楽社作品番号: p467-477
AL:植父江, 昭二(1927-)||ソフエ, ショウジ <DA00024465>
CLS:ND&C:910.26
CLS:ND&C:KG311
SH:896:日本文学 -- 近代 -- 歴史||ニホンブンガク -- ケンダイ -- レキシ//X
SH:ND&S:日本文学 -- 歴史 -- 明治以後||ニホンブンガク -- レキシ -- メイジヨ//X
```

適用細則案の作成方針

- 図書・雑誌を対象→それ以外の資料種別は現段階では作成していない
- 適用、一部適用、非適用、対象外があり
- 和洋に適用
- 現行運用を維持する方針、必要最小限の修正
- コーディングマニュアルの51章に組み込まれ、目録規則の対象項番を確認できるように提供予定

×資料種別ごとの規則構成

×構文面を規定

NCR2018の特徴

<p>FRBRを基盤とする ことによる特徴</p>	<p>FRBRモデルに密着した規則構造 典拠コントロールの位置づけ 全著作の典拠コントロール 関連の記録 資料の内容的側面と物理的側面の整理</p>	
<p>RDAとの相互運用性 の担保に伴う特徴</p>	<p>エレメントの設定(増強など) 語彙のリスト 意味的側面と構文的側面の分離</p>	<p>機械可読性 の向上</p>
<p>その他、日本の事情等 による特徴</p>	<p>「読み」等に関するルール 書誌階層構造の考え方 日本の出版状況、目録慣行を考慮</p>	<p>約30年ぶりの抜本的 な改訂</p>

FRBRモデルに基づくNCR2018の特徴

典拠コントロールを明確に位置付け

「著作」「個人」「団体」等も実体として、それぞれに属性・関連のエレメントを設定

「関連」の重視

実体の属性とは別立てで管理
目録提供時のリンク機能に落とし込みやすい

NCR1987では
「標目」と「参照」の規定

内容的側面と物理的側面の問題を整理

表現形の設定で、資料の構造把握を精密化
著作・表現形を、これまでより重視

→ 機械可読性の向上

モデルを基盤とした規則構造

どれくらい違うのか…

日本目録規則 1987年版改訂3版 (2006年刊行)

目次

- 第1部 記述
- 第1章 記述総則
- 第2章 図書
- 第3章 書写資料
- 第4章 地図資料
- 第5章 楽譜
- 第6章 録音資料
- …
- 第2部 標目
- 第3部 排列

付録

日本目録規則 2018年版

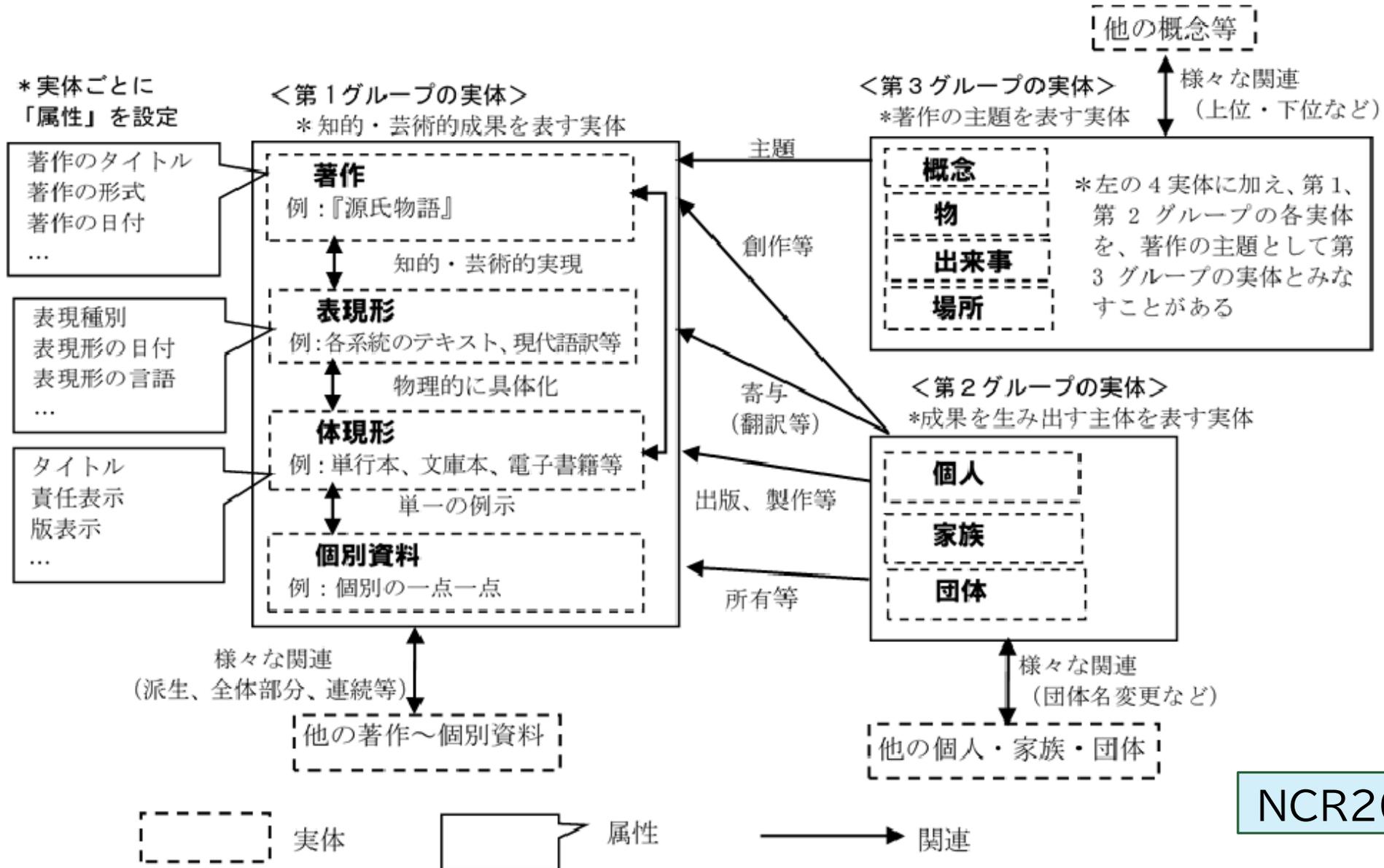
目次

- 第1部 総説
- 第2部 属性
- ＜属性の記録＞

- セクション1 属性総則
- セクション2 著作、表現形、体现形、個別資料
- セクション3 個人・家族・団体
- セクション4 概念、物、出来事、場所
- ＜アクセス・ポイントの構築＞
- セクション5 アクセス・ポイント
- 第3部 関連

付録

NCR2018の概念モデル



NCR2018より引用

例えば...



*書影は版元ドットコム
<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784915512490> (2024年2月6日閲覧) による

目録情報の基準(基準)

修正作業について

- CATPの仕様は変更しない(VTやPUBにコードの追加はある)
- NCR2018への対応は第0部にまとめる。
- その他の部やコーディングマニュアルは第0部にまとめた大きな用語変更を反映
- 第2回パブリックコメント時に追加修正
- 10章以降は変更箇所なし

「統一書名典拠」→「著作典拠」

0.1.1

NACISIS-CATでは統一書名典拠データセットを、著作の典拠データセットとし、名称も「著作典拠データセット」に変更する。

9 著作典拠データ

NACISIS-CATで著作のデータを作成する対象は、当面は以下の資料とする。

- a) 日本、中国等の古典籍
- b) 聖典
- c) 無著者名古典
- d) 音楽作品
- e) その他識別する必要があると判断した著作**

NACISIS-CATと実体

NACISIS-CATでは統一書名典拠データセットを、著作の典拠データセットとし、＜中略＞書誌データとの関連はリンクブロックのUTLデータで表される。

表現形については独立したデータ作成は行わないが、UTLデータ上に表現形の識別要素を記録することができる。

体現形が書誌データ作成の基本になるが、書誌データの中には上記の著作、表現形の要素も含んだ形となる。個別資料は所蔵データとして表される。

「Look through FRBR glasses」 (いまある情報をFRBRに読み替 えるのよ)

「統一標目形」→「典拠形アクセス・ポイント」

これまでの著者名典拠データ、統一書名典拠データの統一標目形は、「典拠形アクセス・ポイント」に、
著者名典拠データ、著作典拠データの「から見よ参照」は、「異形アクセス・ポイント」に

コア・エレメント≡「必須」

コア・エレメントとは？

資料の発見・識別に欠かせないもの



NACISIS-CAT では、「コア・エレメント」を「必須 1」、「必須2」とする。

NACISIS-CATのシステム上必要となる場合は、NCR2018で「コア・エレメント」でない「エレメント」も「必須 1」、「必須 2」とすることができる。

表現種別・機器種別・キャリア種別 ≠「GMD」「SMD」

NCR2018の資料の種別は、NACISIS-CAT の一般資料種別コード，特定資料種別コード（GMD/SMD）とは体系が異なるので、

NCR2018適用後も、GMD/SMDは継続する。

表現種別・機器種別・キャリア種別は、「語彙のリストからの選択を原則」とし、NCR2018の表 2.15.0.2、表 2.16.0.2、表 5.1.3から適切な用語を選択し、注記に記録する。

→表は基準の表0-1, 0-2, 0-3でも参照可

こうした用語の対応は表0-4を参照

表 0-4 NCR2018 と NACSIS-CAT の用語の対応表

NCR2018 の用語	NACSIS-CAT の用語
著作/表現形/体現形/個別資料	(対応する用語はない)
典拠形アクセス・ポイント	著者名典拠データ、著作典拠データの典拠形アクセス・ポイント(HDNG フィールド)
異形アクセス・ポイント	著者名典拠データ、著作典拠データの「 <u>か</u> から見よ参照」(SF フィールドグループ)
(実体の属性および実体間の関連としての)エレメント	フィールドおよびフィールドのデータ要素
エレメント・サブタイプ	フィールドのデータ要素
サブエレメント	フィールドのデータ要素
コア・エレメント	入力レベルが「必須 1」 「必須 2」のフ



いざ、
コーディネーティング
マニュアルへ
